



学校だより

(6月号) 令和元年6月3日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) に向かって ともに学びあう学校
 - ・進んで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》・友だちの輪を広げよう

6月は、「いじめ撲滅強化月間」

校長 河井 尚



さいたま市教育委員会では、毎年6月を「いじめ撲滅強化月間」として、様々な取組を行っています。「いじめはダメ！やっちはいけない！」「見て見ぬふりをしてはいけない」多くの人がわかっているのになくならない「いじめ」。そんな状況を打破しようと平成23年度から始まりました。

以前、ある授業を紹介している記事（西日本新聞 2018/07/15）を読みました。テーマは『いじめ』と『いじり』。この言葉から、あなたは何をイメージしますか。そしてその違いは？」でした。

授業は、あらかじめ行っていた子どもたちへのアンケートの集計結果

「いじめ＝無視する、独りぼっちにする、暴力、仲間はずれ…」

「いじり＝ちょっかいを出す、ツッコミ、面白い失敗を笑う…」

を子どもたちに示した後に、教科書の朗読から始まります。内容は「授業で間違った答えを言った男の子を他の子が笑った。笑われた男の子が嫌な思いをしているのなら、その行為はいじりではなく、いじめだと指摘する女の子。主人公の級友は考え込む。」というものです。

子どもたちは、ふたつの言葉が、「違う」「迷う」「違わない」の3つのうちどれが自分の考えに近いのか、その理由を含め、ホワイトボードを使って話し合っています。

1人の児童が言います。「いじめといじりは結局同じなんじゃないの。」同じ意見が相次ぐ中、先生が「でも先生は失敗した時、笑ってほしいんだけどなー」と投じます。「えー、ダメやろー」「別にそういう人がいてもいいんじゃない」と子どもたちの反応はさまざまでした。

議論が一段落すると、先生は「友達と仲良く生活するために今後、どこに気を付けていきたい？」と問いかけます。発言を求めると、多くの手が挙がります。先生は子どもたちの意見の中から「人それぞれ感じ方は違う」「相手の気持ちを考える」というふたつの言葉を拾い、ハートで囲んだそうです。

いじめをしてしまった児童生徒と話していてよく聞かれるのが、「ふざけてやっつけて、同じ事を自分がされても気にしなかったから、相手がそんなに嫌だったなんて思わなかった。いじめだとは思わなかった」というものです。違いを認め、相手の気持ちを想像する力が十分に育っていないのだと思います。記事の中に『いじめ』と『いじり』の線引きと同様、善悪の判断は突き詰めていくと難しい問題だ。」とありましたが、やはり大切なのは先の先生が取り上げたふたつの言葉なのではないでしょうか。そのことを、私たち大人と子どもたちが一緒になって考え、全ての人が互いに思いやり、よりよい方向にすすんでいければ素敵なのではないかと感じました。

